

令和8年度 山の手支援学校「学ぶ力」育成プログラム

学校番号：27081

自ら課題を見付け、自ら学び、自ら問題を解決する資質・能力

「学ぶ力」	
これまでの 成果	課 題
◇児童が学校生活の中で「～したい」を見付けようとする姿が増えてきている。 ◇ICTを活用することで、その場にいる児童はもちろん、その場にはいない児童が関わりながら学習をすることができた。	◇未経験のこと、難しいこと等にも挑戦しようとする意欲をもつこと。 ◇「～したい」を通して、新たな目標をもつこと。 ◇自分の考えを伝えたり、他者の意見を受け入れて自分の考えを深めたりすること。 ◇病状や障がいにより学習が難しくなることがある。家庭や医療・福祉と連携し、個に応じた支援や指導を充実させる必要がある。
「学ぶ力」の基盤〈協働を通して磨く相互承認の感度〉の現状と課題	
◇札幌市の共通指標における「人の役に立ててうれしいと感じることがある」、「人の役に立つ人間になりたいと思う」の項目には、肯定的な回答をしている一方で、行動する際には、支援が必要となる場面がある。様々な人たちと関わる機会を通し、段階的に支援を減らすことで成功体験を積み重ね、自立を促す必要がある。また、児童の自己肯定感を高めながら、自己有用感を醸成していくことも必要である。	

「学ぶ力」の育成のために着目する資質・能力

自分で課題を見付け、前向きに挑戦する力

	AARサイクルの視点で捉え直した 課題探究的な学習の推進	さっぽろっ子宣言「プラスのまほう」に基づく 自治的な活動の充実
取組	◇育成すべき資質や子どもの興味に迫るカリキュラムマネジメント ⇒自分ごととして捉える学習の工夫 ◇体験や自己決定の場などから主体的に学ぶ ⇒校外学習、外部講師の活用 ⇒教師の支援体制を整える ◇子どもが自らの学びや成長を振り返るまとめの学習 ⇒学びの成果を伝える方法の工夫	◇学部を超えた児童生徒の交流 ⇒児童生徒会議、委員会活動の充実 ◇中学部生徒と協働し、課題解決のために取り組む活動 ⇒集会や行事を通して実践 ◇行事や目標を振り返る場を定期的に設定

〈本プログラムの実行に向けて〉

